

あるシチュエーションを想像してみて下さい。あなたはとてもお腹が空いている。久しぶりに外食するか、中華が食べたいなあ。そんなあなたは中華料理屋に入る。仕事終わりで疲労がたまっているのでビールが飲みたい。中華、ビールときたら、はい、もう決まってますね。そうです、ギョーザが食べたくなるのです。すみませんが私は皆がそうであると信じています。先にビールを注文したあなたは一口流し込む。疲れているのでその爽快感は格別でしょう。さて、問題のギョーザです。この店ではにんにくありとなしが選べるようですよ。ギョーザににんにくがないなんて考えられないという、もはや真理に近い考えはここでは置いておきましょう。ここで大事なものは、もし、あなたにこの後に恋人に会う約束があったとするならば、あなたはとうとう。恋人に会わなければならないから、ここは我慢してにんにくは抜いておこう。いや自分にはにんにくなしなんて考えられない、にんにくしか勝たん。というようなことをいろいろと思うのではないのでしょうか。

それは普通のことです。このように考えるのはやはりあなたは恋人に想像を絶するような口臭をふりまくことはないか、心配しているので、裏を返せばそれだけその人のことを大切に思っているということになります。しかし私にはそのようなことを考える過程は存在しません。にんにくありか、なしか選ぶとなった瞬間、私の頭にはその恋人はいません。私はにんにくありを食べたいから「ただ」それを選ぶのです。選ぶ「その瞬間」だけ、私は恋人のいない、いわゆるひとり身だったわけです。

にんにくありのギョーザとビールのセットで大満足の私でしたが、案の定恋人と会ったとき、私の株は下がりました。これはにんにくありを選んだ私のせいでしょうか。それはお前がにんにく入りを選んだのだから自業自得だ。そう思うでしょう。しかし、よく考えてみて下さい。にんにくありとなし、それを選ぶ「その瞬間」、私はひとり身だったのです。

「その瞬間」、つまり「あの選択」のときです。ひとり身である私は自分でよかれと思って、一番食を満喫できるような最善の選択をしました。最善の選択をして満足しているのだから、その後の、その結果としての不幸は自業自得であるはずがありません。私のせいではないのです。つまりこれは運命、そんな言葉で呼べるようなものではないでしょうか。

私は20代前半である特定の行為の依存症を発症しました。それで大変つらい思いをしました。つらいのは病気だからです。しかし私はこの病気を選んでなっではいません。数え切れることのない「選択」、その連続の結果、そうなってしまったのです。自分で選んでいないのだから当然私には責任はない、ということになります。にんにくありのギョーザを選ぶことしかなかったら、当然周囲から人は離れていくでしょう。

私たちは過去を振り返ると、様々な選択を強いられる場面があります。今こんなつらい思いをしているのはあのとき、あの選択をしたからだ、あのとき、こうしておけばよかった…そう思うこともあるでしょう。現代ではつらいのはお前がそうしてきたからだ、と冷たい言葉を名乗らぬ存在に浴びせられる時代です。しかし私、そしてあなたも自分の過去をそのように責める必要はありません。だって選んでこうなってるわけがないんだもの。

もし先程考えた結果、現在が運命によってあるものである、しかもそれがどうしても耐えられないものであるなら、そんな運命とやらを少し小馬鹿にして侮ってやりましょう。歩いている「その瞬間」、どうしてあなたは前に歩を進めるのですか。どうして後ろに下がらないのですか。

